

(仮称)旭川市スポーツ推進計画の策定に向けた論点の整理メモ

重点施策	1	スポーツ機会の創出と充実
目標像	市民が気軽にスポーツを楽しめる環境が整備され、スポーツを通じて共生社会の実現が図られている。	

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック・パラリンピックを通じ、スポーツの価値の再認識及び共生社会実現への意識が高まっている。旭川市では旭川パラスポーツジュニアメンバーズが採火式を行うなど、活動の盛り上がりやパラスポーツへの認知度が高まっている。 ・北京オリンピック・パラリンピックの開催、札幌オリンピック・パラリンピック誘致の動きにより冬季スポーツへの関心が高まっている。 ・国のスポーツ実施率は、目標には到達しないものの上昇傾向にある。一方、旭川市のスポーツ実施率は国の水準より低い状況。障がい者も同様。※市民意識調査の結果を入れる。 ・スポーツを行わない世代(未実施層)へのアプローチ手法の工夫が必要である。 ・子どものころからのスポーツの習慣付けは、生涯を通じたスポーツに取り組む姿勢や健康づくりへの意識向上に重要であるが、全国体力・運動能力、運動習慣等の調査の結果では、小・中学校ともに体力合計点が全国平均を下回っている。 ・高齢化の進展により要支援・要介護の認定者数及び認定率は増加傾向にある。スポーツは生きがいの創出をはじめ、健康の保持増進や医療費の削減などの複合的な効果が期待できることから、高齢者のスポーツ推進や各年代における健康増進に向けた取組の重要性が増している。 ・1年のうち5か月もの間、積雪がある本市はスノースポーツに適した地域であるが、冬季のスポーツ実施率が、夏季に比べ約10%低下することから、冬季スポーツの推進が重要である。 ・本市出身やゆかりのスポーツ選手及びスポーツチームの活躍は、市民に夢や感動を与えるとともに、本市の知名度向上などが図られ、地域の活力向上につながる。そのためには、競技力の向上が必要であるが、本市では競技の指導者などの担い手が不足しているほか、子どものスポーツ離れが進んでいる。 ・スポーツ選手の育成については、各競技団体やクラブ、少年団などが主体的に取り組んでいるところであり、これまでにオリンピック・パラリンピックのメダリストをはじめとする、世界的なアスリートを輩出している。 ・本市では、全国大会等に出場する選手などへの大会派遣費補助を増額したほか、「アスリート発掘・養成事業」に取り組む、競技力向上に向けた研修会の開催などに取り組んでいる。 ・合宿誘致などによりトップアスリートを間近で見たり、触れ合う機会を創出することで、子どもをはじめ多くの市民がスポーツに関心を持ち、競技の裾野拡大やアスリートの発掘・育成に寄与することが期待されている。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大による影響でライフスタイルの変化や健康意識の高まりが見られており、デジタル技術を取り入れたスポーツ推進や、自宅等でできるスポーツへの需要が高まるなどの新たなニーズが生まれている。
-------	--

指標	1	スポーツ実施率(20歳以上) 国の目標:70%/障がい者40%
	2	子どものスポーツ推進に係る指標を検討
	3	スポーツ実施率(冬季)
	4	スポーツ実施率(高齢者)

番号	施策の柱	内容	展開施策	取組内容	国の第3期スポーツ基本計画	備考
1	世代に合わせたスポーツ活動の推進	・市民が、それぞれのライフステージにおいて、生活様式や趣向、健康状態などに応じ、生涯にわたりスポーツを楽しむことができるよう、スポーツに参加できる機会の充実や、スポーツに参加したくなるような意識の醸成を図る。	①子どものスポーツ推進	・子どものころからスポーツに親しみ、その楽しさを感じることは、スポーツの習慣化をはじめ、体力・運動能力の向上や大人になってもスポーツを続けることにつながる。子どもが気軽にスポーツを楽しめるよう、子ども向けの体操の普及やスポーツイベントなどを開催する。 ・体育の授業等を通して、スポーツの楽しさを感じられるような環境整備に取り組む。	①多様な主体におけるスポーツの機会創出	・社会環境の変化に合わせたスポーツ活動の推進 ・情報発信の強化 ・旭川市のスポーツ実施率(成人・障がい者)の改善に向けた取組が必要 ・誰もが、隙間時間等に気軽にスポーツに取り組める環境の整備 ・他部局(教育・福祉・健康づくり等)との連携強化
			②子育て世代・働く世代のスポーツ推進	・子育て中の世代や働く世代が、スポーツの時間を確保することは、健康づくりやストレスの解消などにつながり、心身ともに充実した暮らしに重要であることから、スポーツを始めるきっかけづくりやスポーツに取り組む機会の創出に向けて、SNSなどを使った情報発信や、夜間にスポーツイベントを開催するなどの取組を推進する。	①多様な主体におけるスポーツの機会創出	
			③高齢者のスポーツ推進	・高齢者がスポーツに親しむことは、生きがいづくりや健康寿命の延伸につながる。体力など自らの心身の状況に応じて無理なく取り組むことのできるスポーツの推進や機会の創出に向けた取組を推進する。	①多様な主体におけるスポーツの機会創出	
2	スポーツを通じた健康づくりの推進	・新型コロナウイルス感染症の拡大や健康意識の高まりにより、暮らしの中でスポーツに親しむことができる環境整備が求められていることから、各関係団体や市が連携して健康づくりに関する情報発信や事業の推進を図る。	①気軽にスポーツに取り組める環境づくりの推進	・スポーツに加え、日常的な身体活動は、健康の維持・増進に欠かせない運動として捉えることが重要であることから、身体活動の活発化や運動を習慣化させるため、日常生活の中で気軽にスポーツや運動に取り組める環境を整備する。	⑤スポーツによる健康増進	・社会環境の変化に合わせたスポーツ活動の推進 ・情報発信の強化 ・ウィズコロナでのスポーツ活動の普及、パンデミックを経たことによる健康意識の高まりへの対応 ・誰もが、隙間時間等に気軽にスポーツに取り組める環境の整備
			②福祉や健康づくり部局との連携推進	・民間事業者や団体、市の福祉担当部局や保健所等と連携し、市民の多様な健康状態やニーズに応じて、スポーツを通じた健康増進を図る。	⑤スポーツによる健康増進	
3	共生の理念に基づくスポーツ活動の推進	性別や世代、身体の状況などに関わらず、互いに認め合いながら、配慮が必要な多様な人々が、スポーツに取り組むことができる社会の実現を目指すことが重要であることから、スポーツへの意欲を阻害する要因の解消やスポーツを楽しめる機会の向上を図る。	①障がい者スポーツの推進	・障がいの有無に関わらず、スポーツを楽しめるようスポーツ施設のバリアフリー化やユニバーサルデザイン化を検討する。 ・障がい者スポーツを体験する機会の創出や活動の支援など、障がい者スポーツの普及を推進する。 ・障がい者スポーツの普及や本市における障がい者スポーツへの支援体制の強化に向け、パラスポーツの大会や車いすラグビーなどの合宿誘致を推進する。	①多様な主体におけるスポーツの機会創出 ⑧スポーツを通じた共生社会の実現	・旭川市のスポーツ実施率(障がい者)の改善に向けた取組が必要 ・情報発信の強化 ・東京オリ・パラを通じたスポーツの価値の再認識及び共生社会実現への意識の高まりへの対応 ・他部局(教育・福祉・健康づくり等)との連携強化

施策			②スポーツ阻害要因の調査・検討	・市民のスポーツへの意欲を高めるため、性別や年代、あるいは家庭環境、更には仕事や学業が多忙であることなど、様々な要因からスポーツをしたくても行けない人にとっての阻害要因の調査や解消に向けた検討を行う。	①多様な主体におけるスポーツの機会創出 ⑧スポーツを通じた共生社会の実現	・社会環境の変化に合わせたスポーツ活動の推進 ・情報発信の強化 ・旭川市のスポーツ実施率(成人・障がい者)の改善に向けた取組が必要 ・誰もが、隙間時間等に気軽にスポーツに取り組める環境の整備	
	4	競技力の向上	・本市出身やゆかりのスポーツ選手やスポーツチームが競技力を高め、それぞれの目標に向けた活動ができるよう、大会派遣費の補助を継続するとともに、スポーツ団体等との連携により、選手や指導者を対象とした研修会の開催や国や道等による事業への協力を行うなど、競技力の向上につながる取組を行う。	①競技力向上への支援	・全国大会等へ出場する選手を支援するため、スポーツ大会選手派遣費補助について積極的な周知を行う。 ・公益財団法人旭川市スポーツ協会等と連携し、競技団体やスポーツ少年団など競技スポーツに関わる団体の活動を支援する。	③国際競技力の向上 ⑩スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材	・オリンピック出場者を多く輩出している一方、競技力・指導力が引き継がれていない状況の改善に向けた取組
				②国や道等との連携推進	・国や道が行うアスリート発掘事業等への協力等を行うことや、連携中枢都市圏の自治体等との連携推進など、競技力向上に向けて国や道などとの連携を推進する。	③国際競技力の向上 ⑩スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材	・オリンピック出場者を多く輩出している一方、競技力・指導力が引き継がれていない状況の改善に向けた取組
				③冬のナショナルトレーニングセンターの誘致検討	・自然環境に恵まれスノースポーツに適した本市の特性を活かし、競技力の向上や次世代のアスリートの発掘につなげるため、札幌冬季オリンピック・パラリンピックの誘致を見据え、冬のナショナルトレーニングセンターの誘致に向けた検討を行う。	③国際競技力の向上 ⑩スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材	・ナショナルトレーニングセンターの誘致に向けた検討
	5	冬季スポーツの推進	・冬季スポーツを行うことは、冬の暮らしを積極的に楽しむことにつながり、健康の保持増進や余暇の充実などに寄与することから、スキーやスノーボード、スケート、アイスホッケーなどの冬季スポーツを推進する。	①冬季スポーツに取り組む環境の充実	・冬季スポーツに取り組む意欲向上を図るため、スポーツ推進委員会の自主事業をはじめとするイベントの開催や、市民から寄贈を受けた歩くスキーを無償で貸し出すリユース事業の推進など、市民が冬季スポーツに参加できる機会の充実を図る。	①多様な主体におけるスポーツの機会創出 ⑤スポーツによる健康増進 ⑦スポーツによる地方創生、まちづくり	・冬季スポーツの人口の減少の改善に向けた取組
				②冬季スポーツ施設の整備	・カムイスキーリンクスや大雪アリーナ等の計画的な施設改修を進めるほか、北彩都などの歩くスキーコースを整備するなど、冬季スポーツ施設の安全性や利便性など、魅力の向上を図る。	⑦スポーツによる地方創生、まちづくり ⑩スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材	・冬季スポーツの人口の減少の改善に向けた取組
	6	新たなニーズに対応したスポーツ活動の推進	・コロナ禍やデジタル技術の進展などに伴って生まれた新たなニーズに対応するため、スポーツ団体や民間企業などとの連携により、本市及び本市周辺の豊かな自然環境や景観などの地域特性を活かしたアウトドアスポーツなどの推進やデジタル技術の活用によるスポーツの推進を図る。	①アウトドアスポーツやeスポーツなどの推進	・本市及び本市周辺の豊かな自然環境や景観を活かしたスポーツ推進を図るため、アウトドアスポーツや、東京オリンピックで注目されたアーバンスポーツなど新たなニーズに対応したスポーツ活動の普及や推進を図る。 ・ICTパークを拠点に、eスポーツイベントの実施やPRなど、eスポーツの普及を図る。	②スポーツ界におけるDXの推進 ⑦スポーツによる地方創生、まちづくり	・eスポーツの更なる普及に向けた取組 ・デジタル技術の向上による、スポーツを「する」「みる」機会の選択肢増加への対応 ・アウトドアスポーツ・アーバンスポーツ振興に向けた取組
				②デジタル技術を活用したスポーツの推進	・リモートによるスポーツ教室などデジタル技術を活用したスポーツ活動推進に取り組む。	②スポーツ界におけるDXの推進 ⑦スポーツによる地方創生、まちづくり	